



ご参観、ありがとうございました

5月6日(金)、47人の保護者の方々(1年:17、2年:18、3年:12)に授業や給食の様子、また、26名の方に部活動をご覧いただきました。平日のお仕事の合間を縫ってのご参観、心より感謝申し上げます。

このたびの学校開放につきましては、昨年12月に実施した保護者アンケートの回答「Home & School で、授業中だけでなく給食の時間や昼休みも載せてほしい。どのように過ごしているのか気になります。」を受けて、授業以外の生徒の姿も見ていただくこととしました。今後も、保護者の皆様のご期待に応えられるよう教職員が一丸となって力を尽くして参ります。引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。



「授業は真剣勝負」、その学びの先にあるものは

20世紀に発明された技術のうち最も重要なものは何だと思いませんか。飛行機、それともコンピュータでしょうか。ノルベリ著『進歩』の中に意外な答えがありました。それは、「空気中から『窒素(チッソ)』を取り出すための工業技術」なのだそうです。

窒素は植物の成長を促します。そのため昔の農業では、「天然の窒素」＝「鳥のふんなど」を用いていました。その後、空気中の窒素で作られた化学肥料が農薬を劇的に変え、そのお陰で、1900年に16億だった世界の人口が何倍にも増加した現代において、食料供給が可能となりました。

その一方で、悲しいことに開発者の一人がその才能を化学兵器にも用いた結果、第一次世界大戦下において、ドイツ軍が毒ガスによって多くの人の命を奪いました。人類の道のりは、常に進歩と後退の繰り返しなのです。

ところで、今現在、私たち人類は進歩を続けているのでしょうか。この瞬間も、国際ルールを無視する大国のリーダー(独裁者)が核兵器を手放した国に攻め入り、平気で「核兵器を使うぞ」と脅しながら罪なき市民の命を奪い続けています。この現実を目の当たりにして、私たちは核兵器廃絶への道が、いかに険しいかを改めて思い知らされています。

さて、このような社会を生きる上で、私たちに何ができるのでしょうか。皆さんの中には、将来、科学技術の発展に身を投じたいと思う人がいれば、音楽の世界に生きがいを感じる人もいます。農業の未来に可能性を見いだす人もいるかもしれません。それぞれ進む道は違っても、その先にあるゴールはたった一つ「平和で心豊かな毎日」なのではないでしょうか。科学技術も音楽も農業もすべて人々の暮らしを豊かにするために在ります。豊かな未来を築く一人として生きるために、まずは、目の前にある学習を大切にしてください。毎日の授業に真剣に取り組むことで、明るい未来は切り開かれます。